

農学部

I	教育の水準	教育 14-2
II	質の向上度	教育 14-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学部教育会議により、教育課程等の指針の策定、教育運営に関する諸課題の審議、学生の学修成果及び卒業の認定等を行っている。また、学部教育会議の下には、農学基礎科目運営 WG 等を設置し、課程制に基づく教育課程の策定、改善、運営を行っている。
- 合宿形式のフィールド実習を夏季プログラムとして集中的に実施することで、通常の講義科目との実施期間の重複の解消等、教育課程の改善に取り組んでいる。
- 教育内容や方法の向上のため、隔年で学生への授業アンケートを実施しており、担当委員会で分析、講評を行い、必要な改善を求めている。平成 25 年度には「片道方向の授業から双方向の授業への転換を求める」等の講評を取りまとめ、各教員への通知及び学部ウェブサイトへの掲載を行い、改善を促している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学部が保有する全国7か所の演習林のほか、農場、牧場、水産実験所等の施設を利用した教育を実施し、学外の施設とも提携して実践的な演習に取り組んでいる。また、グローバルな視野に立つ人材育成のために海外における実習の充実を図っており、国際開発農学専修における東南アジア地域での外国人研究者を交えた意見交換を含む海外実習等の取組を行っている。
- 農林生態系フィールド遠隔教育 ICT システムの導入により、タブレット型端末等を活用した中継やドローンからの映像等の配信によって、演習林や圃場等の野外から遠隔授業を実施している。また、収集した気象データや画像データを用いてアクティブ・ラーニングを実施している。

以上の状況等及び農学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成23年度と平成25年度に実施した学生への学部授業評価アンケート結果では、授業による関連分野の理解・関心の深まりや講義に対する総合評価について、8割程度は肯定的な回答をしている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成26年度の卒業生のうち、大学院への進学者は61.1%となっている。また、就職者は33.1%であり、そのうち3割程度は専門的・技術的職業従事者となっている。

以上の状況等及び農学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- セメスター制から4ターム制への移行に合わせて学部教育のカリキュラムの改善に取り組んでおり、各授業の位置付けと内容の明確性を高めるため、シラバスの記載方法について改善を行っているほか、学生が身に付けるべき研究倫理、情報倫理や、実験や実習を進めるための安全について学ぶため、「農学リテラシー」を農学共通科目とするなどの取組を行っている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成26年度の卒業生のうち、大学院への進学者は61.1%となっている。また、就職者は33.1%であり、そのうち3割程度は専門的・技術的職業従事者となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。